

平成28年熊本地震を踏まえた総合的な活断層調査(平成28～30年度)による日奈久断層帯の強震動評価と令和8年熊本地震

岩田知孝(京都大学名誉教授)・浅野公之(京都大学防災研究所)

上記研究プロジェクトのサブテーマ3(強震動予測の高度化)では、未活動区間である布田川断層帯(宇土区間, 宇土半島北岸区間), 日奈久断層帯の強震動予測高度化を目的として、調査研究を実施した。

【1】日奈久断層帯が活動した場合に強い揺れに見舞われる可能性の高い、八代平野島を中心として、強い揺れの成因となる地盤構造探查を実施、浅部・深部地盤構造モデルの高度化を進めた。

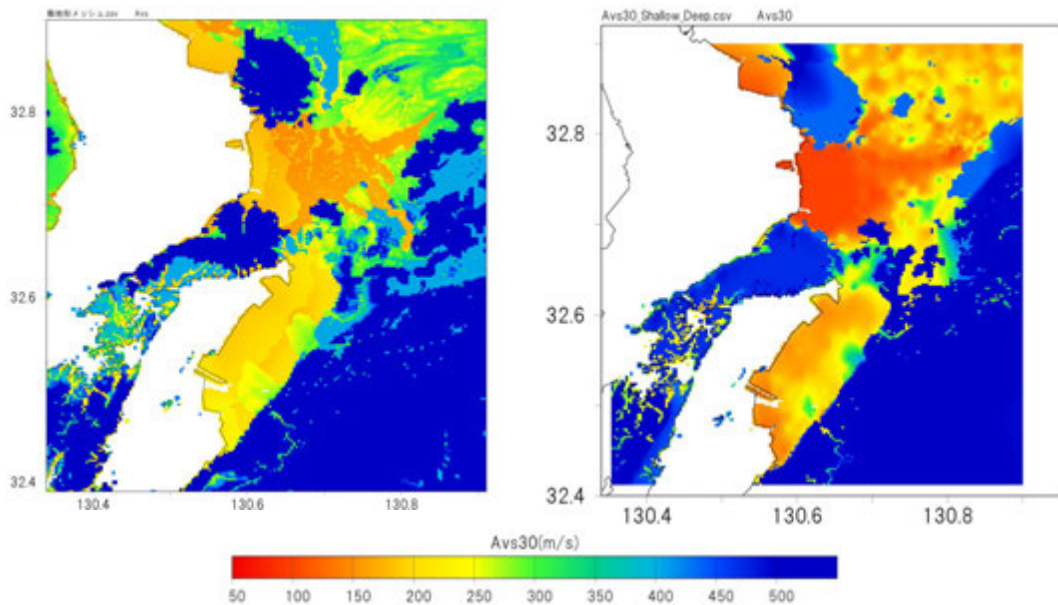


図1:熊本県中部における表層地盤の揺れの増幅特性に関するAVS30(表層30mの平均S波速度)の分布。(左)微地形区分から経験的に得られたもの、(右)上記研究プロジェクト等の浅部・深部統合地盤構造モデルによるもの。熊本平野西部や八代平野では、より揺れやすい特徴が得られた。

【2】日奈久断層帯が活動した場合の予測地震動分布と、令和8年熊本地震で観測された震度の比較

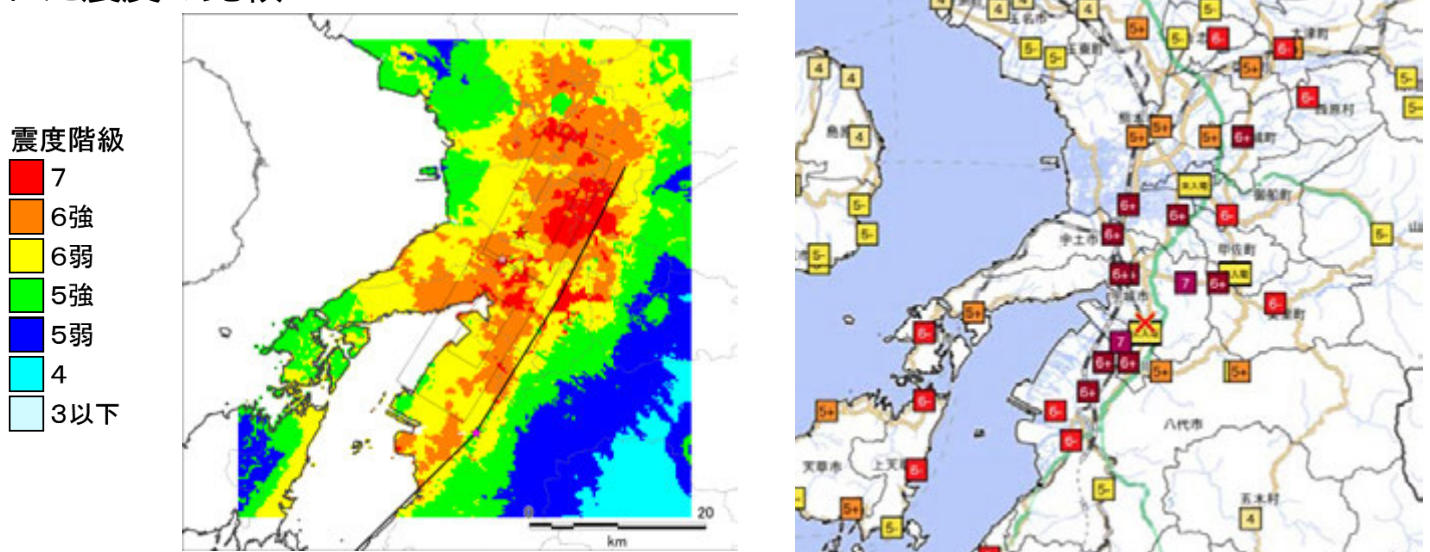


図2:(左)日奈久断層帯全体が破壊した想定地震により予測された熊本県中西部の地表震度分布。(右)令和8年熊本地震で観測された震度(気象庁による)。八代平野や熊本平野南部で強い揺れに見舞われるなどの特徴が予測されている。